2020.11.10 りそなアジア・オセアニア財団第8回環境シンポジウム（於：シティプラザ大阪）

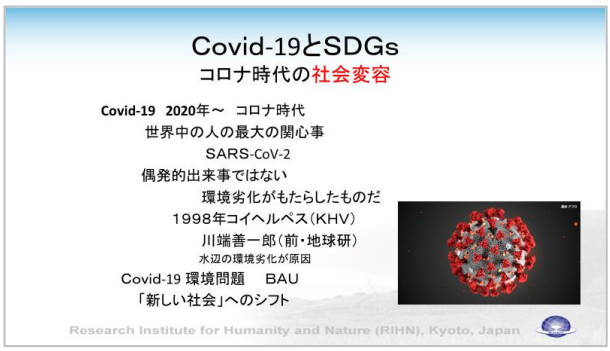
趣旨説明講演録

人間文化研究機構　総合地球環境学研究所　教授
財団環境事業選考委員長

阿　部　健　一

総合地球環境学研究所の阿部でございます。今日のシンポジウム、「COVID-19 と SDGs」の趣旨説明をさせていただきます。時宜に叶ったタイトルにしておりますが、我々がこのシンポジウムで趣旨とするところは、副題の「コロナ時代の社会変容」のほうに力点を置いており、本日は 3 名の方より基調報告をいただくこととしております。

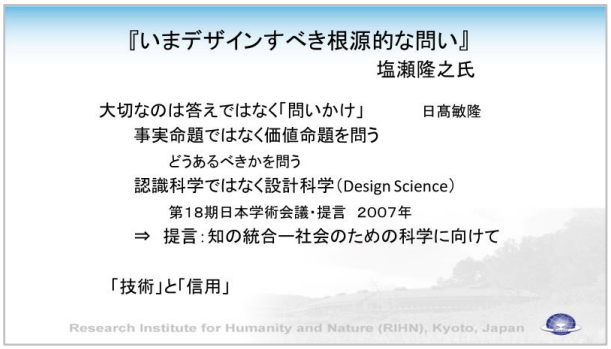
SDGs は、昨年のシンポでも取り上げました。一昨年にもグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事の有馬利男さんと一緒に、SDGs とは何かという話をさせていただきました。SDGsは 2015 年に国連で決まったものですが、有馬さんは「なかなか日本人に周知されていない」とおっしゃっていました。ところが 2020 年、おそらく小学生でも SDGs という言葉を知っているだろうと思います。企業の方や多くの方が、SDGs のバッジをつけておられます。それはどうも、日本人だけのようです。私の友人で、京都精華大学の学長をしているアフリカ出身のサコさんが、「阿部さん、日本人は真面目だね。SDGs、SDGs と誰もが言っているのは」と言います。ヨーロッパで言っているのは、ごく一部の人だけのようです。多分このことは、決して悪いことではなく、日本人の良さが出ているのかもしれません。ただ、SDGs についてはしっかりと考えなければならない。とくに 17 の目標、これを詳しく理解し解説することが重要なのではなく、我々一人ひとりが、そのような社会変容に向けて具体的にどう行動が起こせるか、このことのほうが大事なのです。昨年度のシンポジウムで強調したのは、掲げられた 17 の目標はそれとして、個々人それぞれがこの 1 年間で何が出来るか、社会を変えるために何ができるかの具体的な目標や課題を見つけて実際に行動していこう、自分自身の 18 番目の目標をつくることが大切である、そのような話をしておりました。



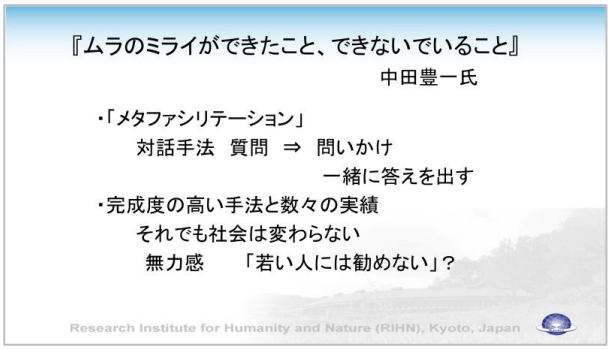
そして今年、コロナ時代の始まりです。終わりは、たぶんないと思います。Covid-19 がワクチンにより今の脅威が薄らいだとしても、おそらく次から次へと感染症が出てくる、そのような時代になりました。写真にあるのが、コロナウィルスです。人類が知りうる最も下等な生きものに、高度に発展したと思われていた社会が脅かされる、これが厳然とした事実なのです。そしてこのコロナウィルスが、地球上の世界の人々へ蔓延するという事態になったのは、環境劣化が原因です。これはあまり多くの人が言っていませんが、我々の研究所の川端教授が、コイヘルペスについて言及しています。1998 年イスラエルで発生したもので、我々が鯉を食べられなくなるのではないか。致死率が高く、発症すれば 100％鯉が死んでしまうというもので、これはごく簡単な構造の生きもの、ウィルスで

ありました。実はコイヘルペスウィルスが広がった原因は、水辺の環境変化が齎したものであるということを、川端教授が研究で明らかにしました。そしてコロナ、それが我々に考えさせることは、このまま続けていけばダメだということです。BAU(Business As Usual)このまま続けていけば、地球はダメになる。だから新しい社会へ変えていかなければならない。ということを強調しています。SDGs は国連が定めた目標ですが、Covid-19 そして SDGs、この2つは、こういったように新しい社会へ変えていこうと、いま我々の生活、社会へ迫っているものなのです。これらの言葉自体は、単純で凡庸なものかもしれません。ただし、これからの我々の社会へずっとついてくる言葉であり、問題であると思います。

今回 3 人に方にお話しをしていただきます。



まず塩瀬さん。「いまデザインすべき根源的な問い」。いま大切なものは答えではなく「問いかけ」だと、我々研究所初代所長の日高敏隆がいつも言っていましたが、塩瀬さんの話を聞くと、事実命題を明らかにするよりも、価値命題を明らかにすることが重要だと言っています。そして「デザイン」、地球科学や認識科学ではなく、デザインサイエンス(設計科学)なのだと。昨今騒がせておりますが、日本学術会議が 2007 年に「知の統合、社会のための科学に向けて」という提言を出しています。事実命題ではなく、価値命題を解くのが学問であると。塩瀬さんからは、研究者としての立場から、これからの学問について発表していただけるのではないかと思っています。



2 番目は、中田さん。国際援助という業界において、名の知られた方です。ここでも中田さんは、「メタファシリテーション」という対話手法で「問う」とおっしゃっています。それは質問ではなく、一緒に答えを出すための「問いかけ」でそれが大事だと。優れた完成度の高いメタファシリテーションという手法で、多くの実績をあげてこられました。しかし、少し心配なことも話されていました。「若い人に自分のやっていることを引き継いでもらっても、社会はなかなか変わらない。」と。中田さんは本日、自身が今までなされたこと、それから、今できないでいることを話してくださることと思います。

そしてその若い人の代表として話いただくのが、濱川さんです。今まで日本の社会は変化してきました。ただそれは、物質的豊かさ、生活の利便性を求めてのものでした。もう少し、他に豊かさや価値があるのではないか、そのような考えの中から、今実際に行っておられる様々な活動を紹介いただけるものと思います。

このお三方、研究者から、長年国際協力で頑張ってこられた方から、そして若い人の代表として頑張っておられる方からお話を聞き、そして我々一人ひとりがこれからの社会変容について考えることができるようなシンポジウムにしたいと思います。以上、私からの趣旨説明とさせていただきます。(終了)